

令和元年度 第2回 水道分野における官民連携推進協議会  
グループディスカッションでの意見交換の概要

テーマ3 広域化に対する取り組み

■ 水道事業者

- ・ 節水型機器の普及などにより、水需要量や収入が減少傾向となる一方、施設の老朽化や自然災害への対策も急務となっている。こうした状況の中、今後も水道事業を持続できるように経営していくためには、基盤の強化に加え、広域化を視野に入れた取組みも必要と考えている。今後、各水道事業者の考えなどを取り入れながら、どのようにまとめていったら良いか。

- ・ 民間事業者：補助金などを活用可能な取組みとすることが有効ではないか。また、本年3月、厚生労働省から「水道広域化推進プラン策定マニュアル」などが出されており、これに沿って検討するのも良いと思われる。
- ・ 民間事業者：広域化を進める際、核となる水道事業者は自らの負担の大きさを懸念することが多いのではないか。この不安をいかにして払拭するかが課題であり、核となる団体が経営視点で検討を進められる環境整備が重要と考える。
- ・ 民間事業者：広域化の中でも事業統合はハードルが高いので、その手前の施設の共同化などから検討を進めてはどうか。例えば、配水池を共同化する場合、水の供給側にもメリットがあり、廃止する側も維持管理費の低減が可能である。お互いwin-winの関係を模索していくのが良いと思われる。

■ 水道事業者

- ・ 水道料金の値上げの前に、広域化などに取り組むことで対応できないか検討している。近隣市町村で集まって情報共有しているものの、広域的に広がっていくイメージをなかなか持てず、実際に連携してやっていけるのか不安がある。施設の老朽化や人口の減少といった問題を抱えている状況で、何か良い解決策があればご教示いただきたい。

- ・ 民間事業者：施設の老朽化については、アセットマネジメントの適切な実施が重要である。また、IoTを活用した管理の導入も一案である。
- ・ 民間事業者：国や都道府県レベルの強力な後押しが必要と考えている。全国の水道事業者の話を見ると、小規模団体はこの先どうしたら良いか分からず、追い詰められているように感じる。今の広域化は大きな水道事業者が自発的に周辺の水道事業者を巻き込んで推進し、それを都道府県が応援する形になっているように思われるが、あまりうまくいっていないのではないだろうか。
- ・ 民間事業者：今の仕事の中から課題を抽出するうちに、同じような課題を抱えた近隣の水道事業者が見つかるかもしれない。その場合、システム面などをまとめて委託していくのも一つの方法である。
- ・ 座長：広域化の検討を進めていく上で、自分たちが何に一番困っているか、また、自分たちの強みは何かを明らかにすることが最初の一步と考えられる。そして、周囲の水道事業者と議論する際は、自分たちの状況が悪いところも含め、公にしていく姿勢が必要・

重要となる。そこで意見の一致をみられれば、前に向かって歩み出すことができるものと思われる。

#### ■ 水道事業者

- ・ 広域化に対するスタンスが水道事業者ごとに異なり、意見調整が難しい。また、それぞれ通常業務を抱えているため、検討する時間もなかなかとれない。

- ・ 民間事業者：広域化は官と官の連携の要素が強いと考えるが、上手に民間事業者を活用し、例えばクラウドの利用や、包括的な業務を同じ民間事業者が委託したことをきっかけとする仮想的な広域化も一案になるのではないか。
- ・ 民間事業者：クラウド上でのデータの集約化など、複数の水道事業者が連携しやすく、また、一緒になろうとする際に効果が出やすい環境を先に整備しておけると良いのではないか。
- ・ 民間事業者：事前の調整は必要になるものの、システム面であればクラウドを使うことで、少し離れていても複数の水道事業者が共同で一つのものを運用していくことも可能と考えられる。
- ・ 民間事業者：最初から事業統合を目指すと思われ進まないと思われるので、簡単なものから始め、お互いの意識の共有ができたところでその上の段階に進むのが良いと思われる。
- ・ 座長：業務委託先が共通する場合に広域化の端緒となりうる点について、実際に企図して進めるには非常に困難なところがあると考えられるものの、とても興味深い点である。

#### ■ 水道行政担当部局

- ・ 広域化について、できるところから何かないかと協議を進めてきたが、地域性や温度感の違いがかなりあることを感じている。これから勉強会を立ち上げていこうと考えており、今はニーズ調査を実施しようというところである。まずは担当者レベルの勉強会で地域の議論をしていきたいと考えているが、他の地域でも様々な取組事例があると思うので参考に聞かせてほしい。

- ・ 民間事業者：当社が水道事業者に困っていることを聞くと共通した回答も多かったため、ニーズ調査のような取組みを進めることは効果的と考えられる。
- ・ 民間事業者：このような場では一般的な意見交換も多くなるので、地域での議論の場にも民間事業者を呼んで意見を聞いていただけたらと思う。そのような場であれば、より地域に根ざした提案ができると考えている。
- ・ 座長：ニーズの把握を含め、検討段階から民間事業者とのコネクションをより積極的に持っていただけたらと考える。

#### ■ 水道事業者

- ・ システム統一による一番大きなメリットは費用面の負担軽減であり、その軽減幅を大きくするには汎用性の高いパッケージのシステムをカスタマイズしないで使用することが効果的と考えている。そこでシステム構築の観点から、水道事業者ごとにどのような違いがあるか、また、どういったところが共通化しやすいか、事例などとともに

ご教示いただきたい。

- ・ 民間事業者：例えば、人のシェア（兼務）が考えられる。これにより委託費用を低減することで、これまで委託の検討を進めるのが難しかった中小水道事業者も検討しやすくなり、広域化の第一歩にもなる。
- ・ 民間事業者：それぞれのメーカーのブラックボックス化したシステムを統合するのは非常に困難であり、どこまでカスタマイズせずに共通の仕様で使用できるか見出すことが大きなテーマとなる。メーカーだけで検討するのは難しいので、コンサルタントと一緒に、課題も含めた情報共有の機会をいただけたらと思う。
- ・ 民間事業者：これからの時代は施設面よりも事務面の工夫の方にメリットがあると考えているが、システム構築は非常にお金がかかる。今後はあまりカスタマイズせずに利用できるシステムを作る民間事業者も現れてくるのではないかと思う。広域化全般については、交付金などをうまく活用していく方法もある。
- ・ 民間事業者：これまで広域監視システムは高価だったが、クラウドの活用で負担を低減できるようになっており、このように費用を抑えるシステムの利用も一案である。
- ・ 座長：今の仕事をそのままずっと続けていくという発想は、今後、通用しなくなるかもしれない。そのままずっと続けていくというのは、カスタマイズをどれだけやるかという話になってしまいかねない。これからの水道事業者にはこのような観点からの考えも必要になるのではないか。

以 上